

# 行政視察報告書

令和2年2月17日

(無会派)

山 登志浩

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和2年2月4日(火曜日)
視察時間	午後1時30分～午後3時30分
視察先	大阪市立西淡路小学校(大阪府大阪市)
視察項目	西淡路小学校「朝ごはんやさん」事業について

# 行政視察報告書

年月日	令和2年2月4日（火曜日）
視察時間	午後1時30分～午後3時30分
視察先	大阪市立西淡路小学校（大阪府大阪市）
視察項目	西淡路小学校「朝ごはんやさん」事業について
<b>■目的</b> 子ども食堂が全国各地に広がっているが、小学校内で子どもに朝食を提供している事例は他になく、極めて先進的である。子どもの貧困対策や子どもの食を保障する方策を検討する際の参考としたい。	
<b>■内容</b> 現在、「西淡路地域活動協議会」と「淡路地域活動協議会」（自治会の組織）の住民有志14人（50歳代～80歳代で全員女性）が、西淡路小学校の家庭科室で子どもに朝食を提供している。2016年11月に活動を開始し、週3回（月・水・金曜日）、朝7時30分～8時30分まで実施している。 全校児童（約430人）に案内を配布し、1カ月ごとの事前申込制としている。貧困家庭の子や、家庭で朝食を取ることができない子どものみを対象にしているわけではない。参加を希望する子どもは誰でも歓迎する。参加者数は平均50人程度で、その半数は1～2年生である。 利用料として1食50円を徴収しているが、主な財源は「地域活動協議会活動費補助金」（自治会の活動を支援する大阪市の補助金）に頼っている（全体の75%を占める）。匿名のカンパが寄せられたことがある。また、フードバンクも活用している。 一方、度々、民間の基金などに助成金を申請したが、採用されたことはない。事業が朝食の提供に特化していることが要因だと考えられる。 代表者の表西（おもにし）弘子さんが、民生・児童委員などの地域活動を通じて、まともな食事ができていない子どもがいることに気付いていた。そこで、朝食の提供を思いついたが、会場の確保に苦慮していた。その際、当時の校長から「学校の家庭科室を使ったらどうか」との提案を受けて、事業を開始することができた。学校を会場にしたことで、子どもは気軽に利用することができ、保護者の安心感も得られた。また、表西さんに鍵を預けており、教職員に余計な負担をかけていない。 朝食を食べることで、頭がすっきりして授業に集中できるようになった。また、参加する子ども同士がコミュニケーションを取って仲良くなれたという。 今後も週3回のペースで続けていきたい。お礼の気持ちを示すために、ボランティアの人々に謝金を払いたいと思うが、財源がないので現実的には難しい。	

## ■所感

一般的に、学校の施設を外部に貸し出すことに、学校側は強い抵抗感を抱く。教職員に新たな負担を強いることや、安全上の問題を懸念するからである。公共施設再配置の議論で、学校を地域活動の場と位置付けて、複合化・多機能化が提案されているが、そう簡単にはいかないだろう。

その点、当時の校長の方から家庭科室を使うことを提案したのは、画期的なことだと思う。住民有志の思いを受け止めた判断に敬意を表したい。もっとも、鍵を住民に預けていることから分かるが、地域住民と学校の間には信用関係が醸成されている。

仮に同様の事業をやるのであれば、学校と上手く連携が図れるのかが、成否のポイントになるだろう。

子ども食堂が全国各地に広がっているとはいえ、開催頻度は月に1～2回がせいぜいだ。現実、それをやるにも相当な労力を要する。この事業は、早朝から準備にあたり、週3回も実施している。ボランティアで支える皆様には頭が下がる思いだ。

こうした事業は、財源の確保も大事だが、それ以上に心ある人材の確保が大きな課題だと認識することができた。活動の担い手がいなければ、なかなか他の地域には広がらないだろう。

以前から「早寝・早起き・朝ごはん」が推進されているが、啓蒙・啓発活動が行なわれているに過ぎない。学校での朝食の提供に対して、「子どもの食事は親が作るべきだ。親の手抜きが助長される」という見方がある。しかし、就労環境が厳しくなっており、子どもの世話を十分にできない保護者、栄養価のある朝食を作る時間が取れない保護者が増えている。子どもの「食」を豊かなものにし、子どもに食の大切さを認識してもらうという点で、この事業は大変意義があると思う。